

# 第37回全日本トライアスロン皆生大会出場レポート

ATA 梅田所属

高津 英彰 (コウツ ヒデアキ)

第37回全日本トライアスロン皆生大会に大阪府トライアスロン協会の推薦選手として出場させていただきました。輝かしい成績があるわけでもない私を推薦いただいたことに、心から感謝申し上げます。

「皆生トライアスロンはどんな大会なのか」と人に尋ねると、国内トライアスロン発祥の地であったり、出場の選考がかなり厳しい大会であったりと、様々な答えが返ってきますが、特に多いのが「非常に暑い大会」という答えです。

そのただでさえ暑い皆生ですが、前日の説明会で「過去10年で一番暑い大会になる」とアナウンスがある程、恐ろしく暑い大会となりました。

## 【スイム】

レース本番当日。

幸いにも朝は曇りで、それほど暑さを感じない。水温26度、波は無し。まるでプールを泳ぐかのような最高のコンディション。

皆生のスイムは岸にそって直線に泳ぎ、また直線で戻ってくるという非常に明確なコース。スタート形式は、フローティングスタートだ。皆生トライアスロンカードを作った人なら、そのデザインから、まさかフローティングスタートだとは思わないのではないだろうか。

開始時刻が迫るにつれ、憧れの皆生のスタートに立てているということを実感し、胸が高まる。心拍計が水中で機能していれば、ゾーン5だったに違いない。スタート後、ライフセーバーの方が先導してくださるも、それ故に多くの方が同じコース取りになってしまった。しかも直線コースなのでばらけることもなく団子状態が続き、自分のペースで泳げずに大苦戦。なんとか集団から離れようとするも、囲まれていて全く逃げられない。他の大会ならだんだんと距離が進むにつれてばらけるが、結局最後まで集団の中を泳ぐ事になってしまった。スタートで集団に入るかどうかで、その後の展開は他の大会よりも大きく変わるのではないだろうか。次の機会をいただければ、スタートのポジションはもっと意識したい。

スイム 51分31秒 (104位)

## 【バイク】

スイムを終えて、大山を楽しむバイクパートに突入。天候はまだ曇りで、それほど暑くはない。コース自体は、事前に皆生のバイクコースを走る「皆生バイクカーニバル」



に参加していたこともあり、数字だけでなく体感としても頭に入っている。大山が獲得標高としては一番厳しいが、その後に延々と続く小さなアップダウンの連続が一番心にも足にもくると分かっていたので、極力足を使わずに下りの勢いを活かして登るように心がける。そのためか、事前に走った時には、「後でこれをまた登るのか……。まだアップダウンは終わらないのか……。」という後ろ向きな気持ちが芽生えていたが、レース本番では心にくることはなかった。

順調にバイクパートを進めていたが、90kmを過ぎた頃に、ついに恐れていたアイツが顔を出し始める。太陽だ！暑い。車体が重くなることも覚悟して、ボトル3本体制で挑んでいたのに、あっという間に空っぽになる。発汗量のせいか、足がつって動けなくなっている選手をちらほらと見かける。明日は我が身だ。はやくドリンクを補充したいと願いながらこぎ続け、やっと折り返しの中山エイドに到着。オアシスにしか見えない。しかも、ここで止まってしっかり補充しろと言わんばかりにバイクラックまで完備されていた。タイムを削りたいという意識はあるが、ここで満足に補充せずに出発すると、一番避けたいDNFもあり得ると判断して、バイクを一旦降りることにした。

エイドに並ぶ、スイカやメロン、オレンジ、梅干しと全てが美味しい。一通りお腹に入れ、ドリンクを補充していると、よっぽど暑がっていたのか、スタッフさんから氷もいただいた。砂漠の水はダイヤよりも価値がある。氷なら尚のこと。バイク完走できたのは、あの氷をくださったスタッフさんの優しさによるものです。

中山エイドでじっくり補充したおかげで、その後も足をつることもなく、道中ですれ違うチームメイトにも笑顔で声をかけることができ、最後の平坦向かい風ゾーンもこぎ続けることができました。この場を借りて、スタッフの方にお礼をお伝えしたいです。あの時は、本当にありがとうございました！

バイク 5時間 48分 43秒 (452位)

## 【ラン】



バイクパートを終えると、応援に来てくれていた練習仲間が待ってくれていた。冬のスポーツのフルマラソンをこの灼熱の中で挑みに行くことに不安を覚えるも、仲間の声援と適度な煽りが私の心に火をつける。仲間にサブ4でもしてやろうかと大見得をきるも、その燃える気持ちもあっという間に消えかかる。お昼の2時になり、ついにこの日の最高気温に達したのだ。最高気温 34 度。実際のコース上はもっと暑かったのではないだろうか。

おそろしくジメツとした暑さ。日陰の無いランコース。おまけに信号にひっかかると、その場でじっと待機しないとイケない。心拍も上がったたり下がったり。一歩間違えればDNFまっしぐらだ。意地でも完走するために、各エイドに寄って給水をし、帽子の中に氷を入れて走ることにした。

暑さでピリピリと痺れ出し、不安な気持ちが増していく。そんな時に支えてくれたのは、コース上で応援して下さる地元の方や、エイドのスタッフの皆様だった。エイドに寄る度に、スタッフの方が、飲み物を渡してくれるだけでなく、名前で声をかけて応援してくれて、その励ましの言葉に心まで回復していった。応援して下さる方も、スタッフの方もずっとそこに立っていて暑いはずなのに、出場させていただいている自分が止まっちゃいけないよなど前向きな力が湧いてくる。感謝の気持ちをこめて支えてくれる方にお辞儀をする。お辞儀の度に帽子の中の氷が落ちていくが気にしない。あるエイドでは、選手に5人がかりでバケツを使って水をかけてくれている子供たちが目に入る。いつもなら確実にシューズが重くなるので避けるが、楽しそうにかけられる子供たちの姿に、喜んでバケツ5配分をあびに行く。水を浴びて、子供たちと一緒に笑っていることに選手とスタッフ・地元の方との一体感を感じる。皆で皆生大会を作っている感覚が湧いてくる。

車から見知らぬ人たちが手を振って、声援を何度も何度もくれる。きっとあの人たちは生まれた時から既に皆生大会が存在して、生活の一部に大会が溶け込んでいるのではないだろうか。歴史ある皆生大会だからこそ、一体感を強く感じた。消えかかっていた気持ちが再び燃え上る。折り返しをすぎて一緒に出場しているチームメンバーたちと出会い、さらに元気をもらう。

去年出場したケアンズのロングでは、ほぼウォーキングで乗り切っていたのに、今回は走ろうという意識が自然と湧いてくる。

応援が力になるという言葉は本当なのだと心底思う。

ペースは落ちながらも止まることはせず、その時のベストで走り続けた。

そしてついに見えてきたゴールの競技場。待っていた仲間に見守られながら、念願の皆生のフィニッシュラインを超えることができた。



ラン 5時間37分49秒 (487位)

トータル 12時間18分03秒 (419位)

聞くとところによると、今年の皆生の完走率は86%だったそうです。全国から猛者が集まるこの皆生でこの完走率。本当に厳しいレースではありましたが、地元の方、スタッフの方、チーム仲間、たくさんの人の応援で完走することができました。

選手と支えて下さる方々との強い一体感は、歴史ある皆生ならではの体験だと思います。あの一体感は心が熱くなります。皆生は暑い大会ではありません。熱い大会なのです。

そのことを多くの方に知っていただきたいですし、また私自身もまた来年出場したいと願っています。

最後に改めて、貴重な機会をいただいた大阪府トライアスロン協会の皆様、運営の方々、地元の方々、一緒に走り抜けてくれた 900 人を超える選手の方々、チームメイト、みなさんに心から感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました！